

# マリンレジャー安全レポート

第20号(平成19年2月)

第七管区海上保安本部  
マリンレジャー安全推進室  
TEL 093-321-2931  
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp



## 海中転落3人(1人死亡) 1月の釣り中の事故

1月14日午前11時前ころ、男性Aさん(26歳)は大分県鶴見町所在の磯で釣り中、居眠りのため前のめりになり海中転落しました。Aさんはうつ伏せのままで動かなかつたので、同行者が飛び込み、Aさんを仰向けにして気道確保し、付近の釣り人と協力して揚収したところ呼吸が戻り、病院へ搬送途中に意識も回復、身体に異常はありませんでした。Aさんは救命胴衣を着用していました。

1月22日午後2時半ころ、男性Bさん(62歳)は福岡県小呂島の防波堤で釣り中、誤って防波堤直下のテトラポットの隙間に転落しました。約1時間後に救出されましたが搬送先の病院で死亡が確認されました。Bさんは救命胴衣を着用していませんでした。

### ～事故からの教訓～

Aさんが無事救助に至ったのはライフジャケットを着用していたことと、同行者等が直ぐに救助したことです。

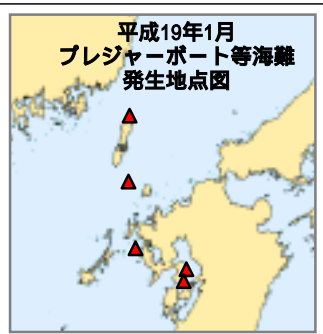
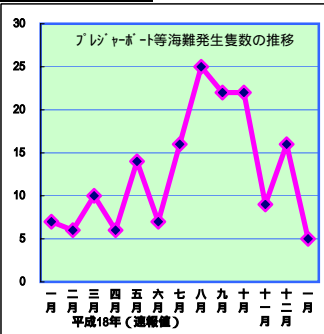
まず「浮く」ためのライフジャケット着用と、一人では、万が一の事故に対応できないことも考えて「複数での釣り」などの備えが必要です。

Bさんは、テトラポットの隙間にうつ伏せで挟まり、また、海面から防波堤上端までが高く、付近の釣り人では救助できず、海保のレンジャーが救出しました。釣り場の地形への配慮、場所に応じた安全装備や体調の管理も大切です。



平成19年1月 プレジャーボート等 海難発生隻数

合計	5隻
衝突	0
乗揚	1
転覆	0
浸水	0
推進器障害	1
舵障害	0
機関故障	1
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	2
安全阻害	0
その他	0



### 1月の海難から

18年のプレジャーボート等の海難船舶数は、160隻となり一昨年(181隻)と比べ21隻減少しました。海難の原因は、船体機器整備不良(バッテリー過放電等)や機関整備不良が目立ちます。1月の海難も、バッテリー過放電、整備不良によるものです。何れも人為的な要因であり、注意すれば防げるものです。発航前や定期的な点検・整備を心掛けていただきたいものです。

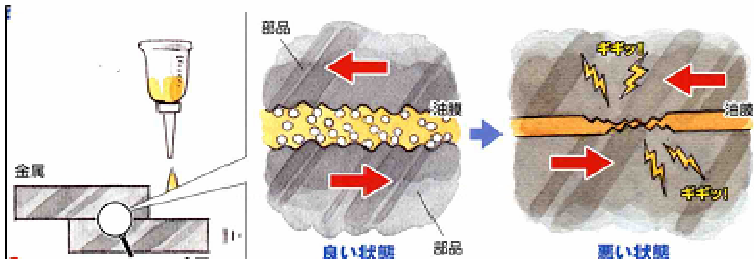
## 小型船舶の機関取扱い～シリーズ

### 機関の故障や整備不良による海難が急増!

### Q3 オイルの中で何かが光っている!これは何?

部品同士が擦れ合ってきた金属粉です。

オイルは、擦れ合う部品の間には油膜をつくり直接接触しないようにしています。この油膜が無くなると、部品同士が擦れ合い金属粉が発生します。油膜が無くなる原因は、オイルの劣化や燃料の混入等です。早目にオイルを交換してください。



### 必ず

◎慣らし運転中は、金属磨耗が多く発生します。必ず初回点検にてオイルとオイルフィルターを交換してください。  
◎初回点検以降は、既定の運転時間と使用期間で交換してください。

## 海の相談室だより (七管本部海洋情報部)

### 平成18年「七管区海の相談室」利用状況

「第七管区海上保安本部海の相談室」(七管区海の相談室)では、平成2年から潮汐、潮流、水深などの情報をはじめ、海洋の利用・開発、マリレジャーなどに役立つ海洋の情報を提供する窓口として、一般の方々からの質問や相談に対応しています。

平成18年に「七管区海の相談室」で、皆様からの電話等による相談に対応して提供した海洋情報件数は693件でした。

相談の特徴としては、例年とほぼ同様に年間を通して、魚釣り、ヨットなどに必要な潮汐・潮流、また春先には潮干狩りに関する問い合わせ、夏場の海水浴シーズンになると水温、波浪等やマリレジャーに必要な情報を中心に一般個人からの相談が多く寄せられています。

一方、民間企業からは、海岸工事等に必要な潮汐・潮流情報及び公共機関などからは、海岸工事計画などに必要な潮汐・潮流、天文情報などの相談が多く寄せられています。

項目別に見ると、「潮汐に関する相談」が44%で最も多く、次いで「海潮流に関する相談」、「天文・暦に関する相談」、「水路図誌に関する相談」の順となっています。

提供件数は、最近減少傾向ですが、一方では、インターネットによるホームページのアクセス件数は増加しています。平成18年は約287万件となり前年に比べると約2.5倍になっています。

今後も、海の安全に役立つ情報、海に関する情報を皆さまに提供してまいりますので、ご利用ください。

「七管区海の相談室」 電話：093-331-0033

ホームページ：<http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/> から「海の相談室」へ

## 自己救命策確保3つの基本

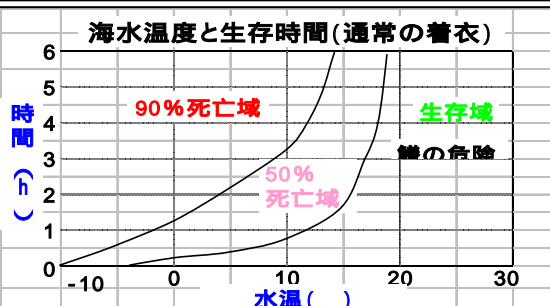
海上保安庁

# 大切な命！自分で守る

～ライフジャケットはあなたの命を守ります～

海の「もしも」は118番!!

ライフジャケット常時着用  
適切な連絡手段の確保(防水バック  
を活用した携帯電話が有効)  
緊急電話118番の活用



海水温度と50%死亡率(通常の着衣)

水温19 ……約5時間

水温10 ……約1時間

水温2 以下 ……約15分

海水温度の現況は、上記「海の相談室だより」内に掲載のホームページ(第七管区海上保安本部)のマリンレジャーのコーナーで参照できます。

低体温の症状推移

体温34 ~ 38 ……激しい震え、意識混濁  
部位感覚喪失

体温30 ~ 34 ……記憶喪失、心拍数低下  
不整脈の出現の可能性

体温29 前後 ……筋肉硬直

体温28 前後 ……瞳孔拡大

体温26 前後 ……筋肉弛緩

体温25 前後 ……死亡

船舶からの海中転落者の  
生存率(平成18年全国統計)

救命胴衣着用 91%

救命胴衣非着用 55%



釣り中の事故者の生存率  
(平成18年全国統計)

救命胴衣着用 79%

救命胴衣非着用 55%